

研究主題 創意工夫して表現する能力を育てる音楽科学習指導の在り方
— 中学校第1学年「楽曲に合った表現」における表現と鑑賞の
関連を図った学習過程の工夫を通して —

土浦市立都和中学校 教諭 郡司 茂樹

研究の概要及び索引語

音楽科の表現領域において、「創意工夫して表現する能力」を育てることは重要である。本研究では、中学校第1学年「楽曲に合った表現」において、表現と鑑賞の関連を図った学習過程を工夫し、知覚・感受したことを基に、試行錯誤しながら楽曲に合った表現をすることで、創意工夫して表現する能力を育てる音楽科学習指導の在り方を追究する。

索引語： 中学校，音楽科，創意工夫して表現する，表現と鑑賞の関連

1 主題設定の理由

学習指導要領（平成20年3月）の改訂にあたり、平成20年1月の中央教育審議会答申において、音楽科改善の基本方針が4点挙げられた。そして、それらを踏まえ、多様な音や音楽を感じ取り、創意工夫して表現したり味わって鑑賞したりする力の育成や、音楽文化についての理解を深め豊かな情操を養うことを重視し、内容等の改善が図られた。このことから、表現領域の学習においては、創意工夫して表現する能力を育てることが求められていると考える。

本校の生徒に対して、表現領域の歌唱の学習における意識調査（平成25年9月17日実施、第1学年3組33人）を行った。その中で、表現に対する自分なりの考えを持って表現していると答えた生徒は25人であった。しかし、「登っていく感じだからだんだん強く歌う。」等のように、音楽を形づくっている要素（以下、要素と示す。）の働きとその働きが生み出す雰囲気結び付けて表現に対する自分なりの考えを持っている生徒は9人であった。さらに、「浜辺の歌」（林古溪作詞、成田為三作曲）を歌唱教材として表現を工夫して歌う学習では、「揺れる感じで歌いたい。」等の表現に対する自分なりの考えは持っているが、それをどのように歌唱で表現したらよいか分からないという実態が見られた。これは、なぜ揺れる感じで歌いたいのか、その根拠となる要素の働きに目が向けられていないためであると考えられる。このことから、要素の働きとその働きが生み出す雰囲気結び付けて知覚・感受し、要素の働かせ方を工夫することを通して、楽曲に合った表現をする学習が必要であると考えられる。

そこで、本研究主題に迫るために、第1学年「楽曲に合った表現」において、表現と鑑賞の関連を図った学習過程を工夫する。表現の学習では、要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を知覚・感受する活動と、要素の働かせ方を工夫して歌唱で表現する活動を行う。鑑賞の学習では、要素の働かせ方から歌唱表現のよさを味わって聴く活動を行う。ここでは、要素の働かせ方によって曲の

雰囲気が変わることに気付けるようにする。この鑑賞の学習を、要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を知覚・感受する活動と、要素の働かせ方を工夫して歌唱で表現する活動の間に位置付けることで、鑑賞の学習での気付きを表現の学習に生かせるようにする。そして、要素の働かせ方を工夫して歌唱で表現する活動をすることによって、楽曲に合った表現ができるようにする。このような学習過程の工夫を通して、創意工夫して表現する能力を育てることができないのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

中学校第1学年「楽曲に合った表現」における表現と鑑賞の関連を図った学習過程の工夫を通して、創意工夫して表現する能力を育てる音楽科学習指導の在り方を究明する。

3 研究の仮説

中学校第1学年「楽曲に合った表現」において、表現と鑑賞の関連を図った学習過程の工夫をすれば、要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を結び付けて知覚・感受し、要素の働かせ方を試行錯誤して、楽曲に合った表現ができるようになり、創意工夫して表現する能力が育つであろう。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

ア 創意工夫して表現する能力について

中学校学習指導要領（平成20年3月文部科学省）第2章第5節音楽第2各学年の目標及び内容〔第1学年〕1目標(2)には、表現に関する目標として「多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。」ことが挙げられている。「創意工夫して表現する能力」について、中学校学習指導要領解説音楽編（平成20年9月）では、「音や音楽に対するイメージを膨らませ、自分なりの意図をもち試行錯誤して表現する能力」と示されている。

また、伊野義博氏は、『中学校音楽科の授業と学力育成—生成の原理による授業デザイン—』において、「曲想を感じ取り表現を工夫する学習の場合、リズムや旋律、あるいは、テクスチャなど、音楽を形づくっている要素やそれらの関連を知覚・感受することによって、曲想そのものの質的な深まりが増していく。そうした学習の過程で、生徒は自己のイメージや思いとかかわらせながら、例えば、『このところは、春の優しさを伝えるような感じを出したいので、p（ピアノ）でレガートに歌ってみよう』といったように思考・判断し、表現の工夫をしていく。」と述べている。創意工夫して表現するためには、要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を結び付けて知覚・感受することが不可欠であると考えられる。

このことから、創意工夫して表現する能力とは、要素とその働きが生み

出す雰囲気を結び付けて知覚・感受し、その要素の働かせ方を工夫することを通して、楽曲に合った表現をすることであると捉える。

イ 創意工夫して表現する能力が育つ過程

本研究では、題材「楽曲に合った表現」において、創意工夫して表現する能力を育てていく。その過程を図1のように考えた。

まず、表現領域の歌唱の学習として、創意工夫して表現するために必要となる、要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を知覚・感受する。

次に、鑑賞の学習において、要素の働かせ方によって生み出される歌唱表現のよさを味わって聴くことことで、要素の働かせ方による曲の雰囲気の変化を感じ取る。

そして、表現領域の歌唱の学習において、知覚・感受したことを基に、要素の働かせ方を工夫して歌唱で表現する。

このような過程を踏まえることが、創意工夫して表現する能力を育てていくことになると考える。

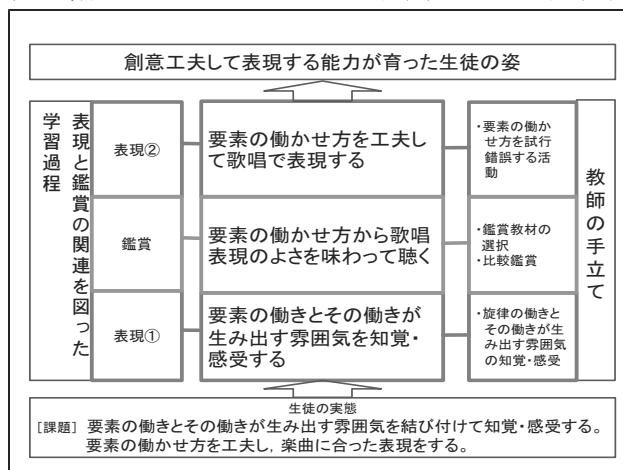


図1 創意工夫して表現する能力が育つ過程

表1 創意工夫して表現する能力が育った生徒の姿

a	要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を結び付けて知覚・感受している。
b	要素の働かせ方を工夫し、楽曲に合った表現をしている。

ウ 創意工夫して表現する能力が育った生徒の姿

創意工夫して表現する能力が育った生徒の姿を、表1のように捉えた。表現①と鑑賞の活動を通して、創意工夫して表現する能力が育った生徒の姿 a，鑑賞と表現②の学習を通して創意工夫して表現する能力が育った生徒の姿 b を目指していく。

エ 表現と鑑賞の関連を図った学習過程について

表現と鑑賞の関連について、寺田貴雄氏は、『最新 中等科音楽教育法 [改訂版]』において、以下のように述べている。「音楽科の授業では、表現と鑑賞の二領域を相互関連させて（アウトプットとインプットの双方向で音楽にかかわり）、指導を展開することが重要である。双方向の音楽とのかかわり方を通して、生徒は音楽体験を充実させ、音楽学習を深化させることができるからである。」ここでいうアウトプットとは表現のことであり、インプットは鑑賞のことである。この二つの活動の支えとなるのが、[共通事項]である。これらのことから、[共通事項]の学習をよりどころとしながら、表現と鑑賞の関連を図った学習を展開することは、それぞれに学んだことを活用しながら、学習を深めていくことにつながると考える。

(2) 主題に迫るために

ア 生徒の実態について

資料1 (p. 4) の表現領域の歌唱の学習における意識調査からは、25人の生徒が、歌を歌う時に自分なりの考えは持っているが、具体的な表現の方法

が示されていないことが分かる。また、資料2の表現領域の歌唱の学習における実態調査（質問紙による調査）からも同様の傾向が見られる。これらの結果から、要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を選び付けて知覚・感受することや、要素の働かせ方を工夫して楽曲に合った表現をすることに課題があることが分かった。

イ 表現と鑑賞の関連を図った学習過程の工夫について

以下のように、表現と鑑賞の関連を図った学習過程の工夫をする。

(ア) 要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を知覚・感受する活動（第一次 表現の学習①）

第一次では、歌唱教材として「花の街」（江間章子作詞 團伊玖磨作曲）を扱う。この曲は要素の一つである旋律の働きに特徴があると考える。ここでの旋律の働きとは、音のつながり方、旋律の方向性、フレーズのまとまり、旋律の緊張と弛緩の関係、旋律と歌詞との関わりを意味している。その旋律の働きや働きが生み出す雰囲気を知覚・感受する。

(イ) 要素の働かせ方から歌唱表現のよさを味わって聴く活動（第二次 鑑賞の学習）

鑑賞の学習では、「花の街」同様に旋律の働きに特徴がある「浜辺の歌」（林古溪作詞 成田為三作曲）を教材とし、要素の働かせ方が違う2種類の「浜辺の歌」を比較鑑賞する。要素の働かせ方によって生み出されるそれぞれの歌唱表現のよさを感じ取れるようにする。そして、それぞれの歌唱表現のよさから、要素の働かせ方によって曲の雰囲気が変わること気付けるようにする。

(ウ) 要素の働かせ方を工夫して歌唱で表現する活動（第三次 表現の学習②）

鑑賞の学習における、要素の働かせ方によって曲の雰囲気が変わることへの気付きを生かして、要素の働かせ方を工夫して歌唱で表現できるようにする。そのために、改めて「花の街」の旋律の働きとその働きが生み出す雰囲気を知覚・感受したり、第一次で録音した自分たちの演奏を聴き、どの要素

資料1 表現領域の歌唱の学習における意識調査

（平成25.9.17実施 土浦市立都和中学校第1学年3組 33人）

- 1 歌を歌う時に自分なりの考えをもって歌っていますか。

① そう思う	10人
② どちらかというと思う	15人
③ どちらかというと思わない	6人
④ そう思わない	2人
- 2 どのような考えをもって歌ったことがありますか。（設問1で①または②を選んだ生徒による記述から）

○ 要素の働かせ方を記述した生徒	9人
・ 強弱の差をはっきりと ・ フォルテで力強く	
・ 優しい感じなので小さく歌う など	
○ 曲の雰囲気のみを記述した生徒	16人
・ 広がりをもって ・ 優しく ・ 語りかけるように	
・ ささやくように など	

資料2 表現領域の歌唱に関する実態調査

（実技テストは平成25.6.20.実施）（質問紙による調査は平成25.9.17実施 土浦市立都和中学校第1学年3組 33人）

- 1 実技テストから
 - (1) 「浜辺の歌」を要素の働かせ方を工夫して歌うことができているか。

できている	3人	できていない	30人
-------	----	--------	-----
 - (2) 「浜辺の歌」をどのように歌いたかと思いましたが。（自由記述）

○ 記述できた生徒	29人
・ 滑らかに ・ 押して引く感じ ・ 揺れる感じ など	
 - (3) そのためにどのような工夫をしましたか。（自由記述）

○ 要素の働かせ方を記述した生徒	4人
・ 強弱に気を付けて ・ 音をのばす など	
○ 雰囲気のみを記述した生徒	25人
・ 思いを込めて ・ 語りかけるように など	

の働かせ方を工夫すべきかを具体的にしたりする。そして、要素の働かせ方を考え、試行錯誤する活動を行う。このような活動を通して、「花の街」にふさわしい表現の方法を見いだしたり、表現するための技能を身に付けたりしていく。

(3) 授業の実践

ア 題材の指導計画（5時間扱い）

次	時	◆ねらい ○主な学習活動	教材	評価規準・評価方法
一 要素の働かせ方を生み出す雰囲気を知覚・感受する。	1	◆「花の街」を歌うことを通して、旋律の特徴や働きを捉え、要素の働かせ方が生み出す雰囲気を感じ取る。	「花の街」	《音楽への関心・意欲・態度①》 「花の街」の歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。（活動の様子、発言の内容、ワークシートと学習カードの記述） 《音楽表現の創意工夫①》 旋律や強弱を知覚しそれらの働かせ方が生み出す特質や雰囲気を感受しながら、歌詞の表す情景や心情、曲想を感じ取っている。（発言の内容、ワークシートの記述）
		○旋律を聴き取ったり、楽譜から旋律の特徴に気付く。 ○旋律の働かせ方を捉え、その働かせ方が生み出す雰囲気を感じ取る。		
二 要素の働かせ方から歌唱表現のよさを味わって聴く。	2	◆要素の働かせ方が違う二つの「浜辺の歌」を比較鑑賞することを通して、要素の働かせ方による曲の雰囲気の変化を感じ取る。	「浜辺の歌」	《音楽の関心・意欲・態度②》 「浜辺の歌」の旋律、強弱の働かせと曲の雰囲気との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。（活動の様子、発言の内容、ワークシートと学習カードの記述） 《鑑賞の能力①》 「浜辺の歌」の旋律や強弱を知覚し、それらの働かせ方が生み出す雰囲気を感じ取りながら、旋律、強弱の働かせと曲の雰囲気との関わりを感じ取って、価値を考え、言葉で説明するなどして、音楽表現のよさを味わって聴いている。（発言の内容、ワークシートの記述）
		○要素の働かせ方の違う二つの「浜辺の歌」を鑑賞する。 ○要素の働かせ方の違いを捉え、それぞれの曲の雰囲気を感じ取る。 ○それぞれの「浜辺の歌」の表現のよさを曲の雰囲気と要素の働かせ方から感じ取り、言葉でまとめ、要素の働かせ方による曲の雰囲気の変化を感じ取る。		
三 要素の働かせ方を工夫して歌唱で表現する。	3	◆「花の街」「浜辺の歌」の要素の特徴や働き、歌詞の表す情景等を捉え、曲の雰囲気と要素の働かせ方とのかかわりを感じ取る。	「浜辺の歌」 「花の街」	《音楽表現の創意工夫①》 旋律や強弱を知覚しそれらの働かせ方が生み出す特質や雰囲気を感受しながら、歌詞の表す情景や心情、曲の雰囲気を感じ取っている。（発言の内容、ワークシートの記述）
		○二つの「浜辺の歌」の要素の働かせ方の違いを捉え、曲の雰囲気とのかかわりを感じ取る。 ○「花の街」の要素の働かせ方と生み出す雰囲気とを結び付けて曲の雰囲気を知覚・感受する。		
	4	◆要素の働かせ方を考え、試行錯誤する活動を通して、楽曲に合った表現の方法を見付ける。	「花の街」	《音楽表現の創意工夫②》 感じ取った歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気を基に曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。（活動の様子、発言の内容、ワークシートと学習カードの記述）
		○第一次で録音した自分たちの演奏を聴き、工夫すべき点を具体的に挙げる。 ○要素の働かせ方を考え、試行錯誤しながら歌う。		
5	◆楽曲に合った表現の方法で、自分たちの「花の街」を歌唱で表現する。	「花の街」	《音楽表現の技能①》 歌詞の表す情景や心情、曲の雰囲気を生かした音楽表現をするのに必要な発声、日本語の発音、呼吸法、読譜の仕方などを身に付けて歌っている。（活動の様子）	
	○旋律の働かせ方が生み出す雰囲気に合った表現の工夫をする。 ○自分たちの「花の街」を歌唱で表現する。			

イ 本題材の授業記録

抽出した生徒		生徒A 要素の働きとその働きが生み出す雰囲気結び付けて知覚・感受し、楽曲に合った表現をしていた生徒。 生徒B 要素の働きを捉えることはできているが、要素の働きが生み出す雰囲気を感じることができていない生徒。 生徒C 要素の働きを捉えることができていない生徒。			
次	時	抽出した生徒の様子（・は活動の様子、●は記述）			
		全体の様子	生徒A	生徒B	生徒C
一 が要素の働きとその働きを生み出す雰囲気を知覚・感受する。	1	○旋律を聴き取ったり、楽譜から旋律の特徴に気付く。 ○旋律の働きを捉え、その働きが生み出す雰囲気を感じ取る。	●音の連なりが山を描くようになっていて、同じリズムが繰り返されている。 ●伸ばす音が多く音の変化が緩やか。 ●波のようになっている。 ●なめらかに。 ・強弱に気を付けて歌う。 ●なめらかに、小さい幸せを願うように歌いたい。	●フラットがありタイがある。 ●ドからレの音までしか使われていない。 ●音が連なっている。 ●小節のはじめに八分休符がある。 ・楽譜をみながら歌う。 ●静かな曲だと思う。	●音が上がったりがったりする。 ●伸ばす音が多い。 ●八分休符が多い。 ・楽譜をみながら歌う。 ●上げるところは上げ、下げるところは下げる。
	二 要素の働かせ方から歌唱表現のよさを味わって聴く。	2	○要素の働かせ方の違う二つの「浜辺の歌」を鑑賞する。 ○要素の働かせ方の違いを捉え、それぞれの曲の雰囲気を感じ取る。 ○それぞれの「浜辺の歌」の表現のよさを曲の雰囲気と要素の働かせ方から感じ取り、言葉でまとめ、要素の働かせの違いによる曲の雰囲気の変化を感じ取る。	●テンポの変化が違う。 ●次の音（言葉）までの時間。 ・実際に歌う場面ではでは 伸ばす音を大きめに、息継ぎを気付けて歌う。 A B ●一つ一つの音の長さを変えているから。ゆったり穏やか。 ●静かで、余り人気のない浜辺。（穏やかな波） ●強弱の差がある。潮の満ち引き（淡々としている） ●割と一定のリズムで少し強めの波が満ち引きする浜辺。	●Aは「く」と「も」の間が長い。Bは強弱の差がはっきりしている。 ・実際に歌う場面では テンポや強弱に気を付けて歌う。 A B ●ゆったりして穏やかな感じ。 ●穏やかな波の浜辺。（静かで小さい波） ●fの所を強く歌っていたから。 ●大きな波になっている浜辺。（速い波）
三 要素の働かせ方を工夫して歌唱で表現する。	3	○二つの「浜辺の歌」の要素の働かせ方の違いを捉え、曲の雰囲気とのかかわりを感じ取る。 ○「花の街」の曲の雰囲気に合った表現にするためにはどのように要素を働かせたらよいか考える。	A B ●音の長さを微妙に変えることで、とても穏やかな潮の満ち引きを感じることができる曲 ●音のつながりが緩やかなので、風が通りすぎている時の滑らかな感じ。「春よ春よとかけていったよ」で吹いていく風が春を追いかけつけて遠くに行く感じ。 ●「一本の線が繋がっている」意識を持って言葉をたたかないで音が突然大きくなるように歌うとよい。 ●「春よ春よ」はデクレッシェンドをして歌うとよい。	A B ●静かで穏やかな小さい波の浜辺。（一つ一つの音の長さが違って穏やかな感じ） ●歌詞の意味を感じ、滑らかに歌うとよい。 ●少し大きめで速い波がくる浜辺。（テンポが速く強弱の差がはっきりしているから） ●静かな山で風がリボンになって流れていくような感じ。次の音との差がなく滑らかだし、歌詞からもそのような情景が思い浮かんだ。	A B ●ゆったりして聴きやすい。 ●流れるテンポが速いので文書を覚えていられる。 ●音の山がきれいで聴きやすい。また歌っても楽しい。 ●音の高さやリズムを合わせるとよい。 ●強弱があると相手によく伝わると思った。
	4 5	○第一次で録音した自分たちの演奏を聴き、工夫すべき点を具体的に挙げる。 ○要素の働かせ方を考え、試行錯誤しながら歌う。 ○自分たちの「花の街」を歌唱で表現する。	・教師に工夫すべき点を問われ「息の吸う量で変わる。」と思うと答える。 ●段々近くなる表現をするためには、段々大きくしたり言葉を少しためたりするとよい。 ●遠くに行く感じの所は、段々小さくすることで表現することができる。 ・練習ではmpで歌い出し、フレージングに気を付けて歌う。 ●滑らかに歌うためには少し長めに歌い、揺れを出して歌うことがわかった。 ●語尾をたたかずに少し小さく	・教師に工夫すべき点を問われ、「強弱を付けて歌う」と希望に満ちた感じになると思う。」と答える。 ●リズムが同じ「輪になって」の1回目はmpで2回目はmfで歌い少し変化を付けるとよいことがわかった。 ●同じ歌詞でも希望に満ちた感じと遠くへと行く感じの表現ができることがわかった。 ・練習では細かい強弱に気を付けて歌う。 ●滑らかにするために、一つ一つの音をしっかりと伸ばし語尾を少し弱くすれば滑らかな感じになることがわ	・教師に工夫すべき点を問われ「強弱が付けられればよいと思う。」と答える。 ・楽譜を見ながら強弱に気を付けて歌う。 ●強弱、伸ばすところを注意して歌えば、滑らかになることが分かった。

		して歌うとよいことがわかった。(音の高さによって少し強弱を付ける。)	かった。 ●一番盛り上がるのは「た」を強くするとよい。
※下線は、要素やその要素の働きを捉えている姿、波線は、要素の働きが生み出す雰囲気を感じている姿、ゴシック文字は、楽曲に合った表現をしている姿			

(4) 授業の分析と考察

ア 表現と鑑賞の関連を図った学習過程の工夫について

(ア) 要素の働きとその要素の働きが生み出す雰囲気を知覚・感受する活動(第一次 表現の学習①)

はじめに、旋律だけを示した楽譜を基に、旋律の働きを見付ける活動を行った。資料4は、旋律の働きについて気付いたことを書き込んだ付箋である。小節の頭にある八分休符からフレーズのまとまり、描いた旋律線から旋律の動きの特徴や同じ音型の繰り返しなどに気付いていることが分かる。

次に、旋律に合わせて歌詞が示されている楽譜を提示した。生徒は、旋律の働きと歌詞との関連を図りながら、フレーズのまとまりが言葉のまとまりになっていること、同じ言葉の繰り返しのところが同じ音型になっていることなどに気付くことができた。

このような活動を通して、旋律の働きに目を向けることができたと考えられる。また、資料5は、第一次の生徒の振り返りである。これらから、旋律の働きとその働きが生み出す雰囲気を知覚・感受していることが分かる。

(イ) 要素の働かせ方から歌唱表現のよさを味わって聴く活動(第二次 鑑賞の学習)

旋律の働かせ方が違うAとBの「浜辺の歌」を比較鑑賞する活動を行った。Aは旋律の揺れ、Bはフレーズのまとまりにそれぞれ特徴がある。第一次の表現の学習①における旋律の働きへの気付きを生かし、この二つの違いを感じ取れるように、演奏を聴いて模倣する活動を繰り返し行った。この活動から、Aは一つ一つの音の長さを変えているので旋律が揺れているように感じること、Bは、歌詞のまとまりごとに歌っているので旋律のまとまりや滑らかさを感じることに気付くことができた。さらに、このような歌唱表現から、浜辺の様子を思い浮かべる活動を行った。Aは旋

資料4 生徒が書き込みをした付箋

1段目 音が低→高→低 山の丘になっている	同じ音が続いているところがある (906) (1段目)
「た」が2回繰り返されている	8分休符か16分休符の前にある。
音の上下があまりない ゆくり流れる感じ	4段目が比較的に高い
音がつらねが流れるように 旋律になっている	音符が山のようにつながっている

資料5 第一次の生徒の振り返り

<ul style="list-style-type: none"> ・音符のつながりが波のようになっているので、<u>澄らかな感じ</u>の曲で、滑らかに丁寧に歌いたい。 ・音の高さがあまり変わらないので、<u>静かでゆったりした曲</u>だと思います。 ・音の変化がゆるやかで、戦争に関する悲しみのある曲で、<u>流れるような感じ</u>の曲だと思った。

※下線は要素の働き、波線は曲の雰囲気

律に揺れがあるので穏やかな浜辺、Bは、旋律にまとまりや滑らかさがあるので大きな波が押し寄せる浜辺の様子を思い浮かべていた。旋律の働かせ方と曲の雰囲気とのかかわりに目を向けながらそれぞれの歌唱表現のよさを味わっていることが分かる。

資料6は、第二次で使用したワークシートである。また、資料7は、第二次の学習のまとめとして生徒が書いたものである。

要素の働かせ方が違う歌唱表現を比較鑑賞する活動は、それぞれの歌唱表現のよさから、要素の働かせ方の違いによって曲の雰囲気が変わること気付くことにつながった。

(ウ) 要素の働かせ方を工夫して歌唱で表現する活動（第三次 表現の学習②）

まず、第三次の第1時には、「花の街」の要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を知覚・感受する活動を行った。資料8は、「花の街」がどのような歌かを書いたものである。ここからは、第一次よりも、要素の働きが具体的にになっていること、また、その働きが生み出す雰囲気が、歌詞の内容とも結び付き、曲全体の雰囲気を感じ取っていることが分かる。

次に、第三次の第2・3時では、要素の働かせ方を工夫しながら、楽曲に合った歌唱表現をする活動を行った。第2時は、曲の後半部分を、第3時は、楽曲全体の要素の働かせ方を工夫した。

資料9は、生徒が楽譜に記入した要素の働かせ方をまとめたものである。

生徒は、鑑賞の学習で学んだ、要素の働かせ方の違いにより曲の雰囲気が変わることを生かし、どのように要素を働かせたらよいのかを考え、その考えを実際に歌って試したり、考えに合

資料6 第二次で使用したワークシート

資料7 第二次の学習のまとめ

Aの「浜辺の歌」

- 音の長さを長くしたり伸ばす所で声量を少しずつ大きくしていき、ゆったりとした波が想像できる。

Bの「浜辺の歌」

- 強弱がはっきりしていて曲の盛り上がりがとても大きい。テンポも速いので大きく強い波が押し寄せてくる浜辺。

※下線は要素の働き、波線は曲の雰囲気

資料8 「花の街」がどのような歌かをワークシートにまとめたもの

- 音が山のようになっていてとても滑らかで、花がたくさん咲いている穏やかで平和な街。
- 春の風が自分の所まで来て、通り過ぎる明るい感じがする。音が少しずつ上がってくると風が近づいてきて、音が下がっていくと、通り過ぎ遠くに行ってしまう情景が想像できた。

※下線は要素の働き、波線は曲の雰囲気

資料9 生徒が楽譜に記入した要素の働かせ方をまとめたもの

- 強弱の働かせ方について
 - 14小節目から15小節目
 - 段々近づいてくる様子を表現するために、クレッシェンドしながら歌う。
 - 19小節目から22小節目
 - 段々遠くへ行く様子を表現するために、段々小さくして歌う。
- 旋律の働かせ方について
 - 16小節目
 - 語尾が大きくなるように「た」より「よ」を小さくして歌う。
 - 19小節目
 - 遠くに行く感じを出すために、2回目の「は」を長めに発音する。

った表現になっているかどうかを判断したりするなど、試行錯誤しながら楽曲に合った表現の方法を見いだしていった。

また、その中で、より楽曲に合った表現にするために、強弱の働かせ方を関連付けたり、日本語の発音の仕方などにも気付いたりして、「花の街」にふさわしい表現をするために必要な技能を身に付けていくこともできた。

これらのことから、旋律の働かせ方を考え試行錯誤する活動は、要素の働かせ方を工夫して歌唱で表現するための手立てとして有効であったと考える。

イ クラス全体の変容

第一次と第三次の第1時において、「花の街」がどのような曲かを記述したものを分析した。要素やその働きについて記述した生徒は第一次では20人であったが第三次の第1時では31人に増えた。要素の働きとその働きが生み出す曲の雰囲気を選び付けて記述している生徒は、第一次では14人であったが第三次の第1時では26人となった。これは、鑑賞の学習を第二次に位置付け、要素の働かせ方と曲の雰囲気とのかかわりに目を向けたことが、要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を結び付けて知覚・

資料10 事後の歌唱に関する実態調査

(平成25.11.14実施 土浦市立都和中学校第1学年3組 33人)

感受することにつながったと考える。
事後の歌唱に関する実態調査を資料10に示した。「花の街」の曲の雰囲気を表現するためにどのような工夫をしたかの問いに対して、要素の働かせ方と答えた生徒は33人であった。また、第三次の第3時で全員で歌った「花の街」からは、楽曲に合った表現をしていることが分かった。これは、鑑賞の学習において、要素の働かせ方の違いによって曲の雰囲気が変わること気付いたことが、要素の働かせ方を試行錯誤することにつながり、楽曲に合った表現の方法を見いだすことができたからだと捉える。

- | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| ○「花の街」はどのような曲でしたか？ | |
| ・要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を結び付けて記述した生徒 | 31人 |
| ・要素の働きと要素の働きが生み出す雰囲気が結び付いていない記述をした生徒 | 2人 |
| ○「花の街」の曲の雰囲気を表現するためにどのような工夫をしましたか？(自由記述) | |
| ・要素の働かせ方を記述した生徒 | 33人 |
| ・理由もあわせて記述した生徒 | 20人 |
| 【生徒の記述例】 | |
| ・「輪になって」は、1回目より2回目を少し強く歌って近くに来る感じを出して、「春よ」は2回目を弱くして「駆けていったよ」に向けて段々小さくすることで遠くに行く感じを出す。 | |
| ○工夫を生かして歌うことができましたか？ | |
| ・そう思う | 31人 |
| ・そう思わない | 2人 |

以上のことから、表現と鑑賞の関連を図った学習過程の工夫が、創意工夫して表現する能力を育てるための手立てとして有効であったと考える。

ウ 抽出生徒の変容

本題材の授業記録に示した生徒の活動の様子やワークシートの記述の内容から、抽出生徒の変容を分析した。

抽出生徒Aは、第一次から、旋律の働きとその働きが生み出す雰囲気を結び付けて知覚・感受していることが分かる。さらに、要素の働かせ方を工夫して歌唱で表現する活動においては、旋律の働きから強弱の働かせ方にも目を向け、自分なりの考えを持って試行錯誤し、楽曲に合った表現の方法を見いだすことができている。

抽出生徒Bは、鑑賞の学習における、要素の働かせ方の違いによる歌唱表現のよさを味わって聴く活動によって、要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を感じ付けられるようになったことが分かる。そして、要素の働かせ方を工夫して歌唱で表現する活動では、旋律の働きに合った強弱の働かせ方を工夫するとよいことに気付くことができ、強弱の働きに気を付けて表現することができるようになっている。

抽出生徒Cは、第一次の学習において、楽譜を見たり、実際に歌ったりすることで、旋律の働きに気付くことができた。また、第二次の鑑賞の学習において、曲の雰囲気を捉えることができるようになった。さらに、第三次の要素の働かせ方を工夫して歌唱で表現する活動では、楽曲に合った旋律、強弱の働かせ方が分かるようになっている。

抽出した3人の生徒の変容からも、表現と鑑賞の関連を図った学習過程の工夫が創意工夫して表現する能力を育てることにつながったと考える。

5 研究のまとめ

中学校第1学年「楽曲に合った表現」の題材において、表現と鑑賞の関連を図った学習過程の工夫を通して、創意工夫して表現する能力を育てる音楽科学習指導の在り方について追究した結果、次のことが明らかになった。

学習過程の工夫として、表現の学習の間に鑑賞の学習を位置付けることにより、要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を結び付けて知覚・感受することができるようになった。また、要素の働かせ方を試行錯誤することで、楽曲に合った表現の方法を見いだしたり、表現をするために必要な技能を身に付けたりすることにつながった。

このことから、表現と鑑賞の関連を図った学習過程の工夫は、創意工夫して表現する能力を育てることに効果があったと考える。

6 今後の課題

- (1) 生徒一人一人の創意工夫して表現する能力を高めるために、継続して学習活動や手立ての工夫をしていきたい。
- (2) 創意工夫して表現したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりするなど学習を深めていけるように、〔共通事項〕の学習をよりどころにして、領域や分野の関連を図った題材構成の工夫に取り組んでいきたい。

〈引用文献〉

文部科学省 「中学校学習指導要領」 平成20年3月

文部科学省 「中学校学習指導要領解説音楽編」 平成20年9月

西園芳信監修 「中学校音楽科の授業と学力育成－生成の原理による授業デザイン－」 廣済堂あかつき 平成21年10月

中等科音楽教育研究会編 「最新 中等科音楽教育法〔改訂版〕中学校・高等学校教員養成課程用」 音楽之友社 平成23年2月